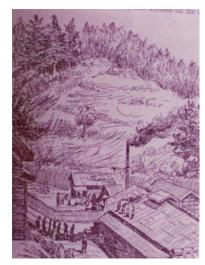
広島第9分所(大浜)メモ

POW 研究会 笹本妙子

42.11.26 八幡仮俘虜収容所宇部分所大浜分遣所として、小野田市(現山陽小野田市)田の尻に開設。ジャワよりイギリス兵 170 名到着。

- 43.1.1 福岡俘虜収容所宇部分所大浜分遣所と改編。
- 43.3.1 福岡俘虜収容所第9分所と改称。
- 43.3.23 アメリカ兵3名到着。
- 43.8.24 オランダ将校1名到着。
- 43.12.1 福岡俘虜収容所第4派遣所と改称。
- 44.9.3 シンガポールより、オーストラリア兵 251 名到着。
- 45.4.13 広島俘虜収容所第7派遣所と改称。
- 45.8 広島俘虜収容所第9分所と改称。
- 45.9.? 帰国の途に着く
- ●収容所は、田の尻の現・宇部フィルムの敷地の一角にあり、鉱員寮を利用した木造2階建てが2棟と事務所や炊事場などがあったが、現在は空き地となっている。
- ●捕虜は大浜炭鉱(大倉財閥系)で使役された。
- ●終戦時収容人員 390 名 (豪 244, 英 142, 米 3, 蘭 1)、収容中の死者 23 名。
- ●英国の書物には、「貧しい村人たちが、42年11月末の真夜中に到着した捕虜を歓迎し、彼らの荷物を運んだ。地元の医師や歯科医が彼らを診療し、村人たちは彼らをお客様としてもてなした。収容所長は言葉では尽くせないほど親切な人だった」と書かれている。この収容所長とは二代目の楠本政夫中尉のことで、彼は戦後間もない45年12月に43歳で病死したが、2001年、ある日本女性の仲介で、楠本氏の遺族と英捕虜の未亡人との交流が実現し、その心温まるエピソードが読売新聞に掲載された。
- ●今回来日予定の Charles Edwards 氏はこの記事 に興味を持ったようで、2006 年にキャンベラの豪国



捕虜がスケッチした収容所



終戦直後の大浜炭鉱



43.3 浜辺で遊ぶ捕虜たち (プロパガンダ用写真)

立大学と当会との共同セミナーに参加した元捕虜 Bill Flowers 氏(故人)を通じて、記事の英訳を当会の会員に依頼し、そのお礼に大浜関係の様々な資料を送ってくれた。

- ●捕虜生活はそれなりに厳しいものであったが、上記の他にもいくつかの心温まる話があり、他の収容 所に比べれば、大浜はかなりマシな収容所であったと思われる。
- ●これまで、オーストラリアやイギリスから捕虜の息子、娘、作家、研究者など多くの人が大浜を訪問 しているが、山陽小野田市役所はその受け入れに全面的に協力し、市長も必ず面会している。